

学術ポータル担当者研修レポート（信州大学）

(1) 発表資料の状況設定

学部教員会議で10分間ほど、時間を取っていただき、図書館職員が教員に対して【信州大学学術情報オンラインシステム】の概略を説明する。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

・発表内容抄録

『信州大学学術情報オンラインシステム』とは、1. リポジトリと2. 新・研究者総覧の連携システムを指す。評価・分析室、研究推進部、附属図書館による共同プロジェクトにより今年度10月から開始する。これを実施することにより、研究者および機関の可視性を向上させ、研究者の負担軽減を図る効果がある。また、リポジトリと新・研究者総覧を連携することにより、双方のメリットがより向上することが期待される。

・研修当日の講師からの助言

紀要の経費削減、研究者本人が検索ワードを入力するメリットとは何か等の質問があった。新たな予算拠出が無いことは、大変印象が良い、とご指摘いただいた。

・研修発表との改訂部分

システム名称は、当該のものに決定される予定なので、改定をした。

ポイントを集約し、枚数を減らした。

配布資料は、図のみだったが、すべての頁を配布する。

8月に実施予定の先行大学の講演会については、すでに実施したので、この部分を削除した。

今後のスケジュールがはっきりしたので、明記した。

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数）

10月6日（金）、信州大学附属図書館会議室、石坂憲司、主査会議：館長、副館長、課長、補佐、各館主査、13名

(4) リハプレゼンへの反響（感想の声）

①本文の文字がもう少し大きい方がいいと思います。

②口頭では「先生方」が適当だと思いますが、文字で見るとこの単語には違和感がありました。

③「機関リポジトリとは」のメリット最終行「論文の増加」という表現が、あいまいだと思います。口頭で「リポジトリに収集される論文が増加すると」と説明がありましたが、それを聞くまでは「大学全体の論文生産数が増加」かと思っていました。

④当日も出ましたが、「インパクト向上」もあいまいというか、誤解を招きそうです。

- ⑤「教育研究者総覧とは」の1行目「更新内容が古くなった」という表現は、すわりが悪いような気がします。
- ⑥同じく4行目から、「直接リポジトリに登録いただいて」の文章は、総覧の話なのに何故ここでリポジトリが出てくるのか、関連がつかみくい、説明不足に思いました。
- ⑦「出版社ポリシーの調査」口頭では説明がありましたが、教員には訳のわからない単語だと思います。
- ⑧「アクセスポイント」は、ここでは単に窓口・担当者の意味ですか？
それとも具体的な URL？
- ⑨「可視性」「視認性」という言葉は、どうにかならないのでしょうか。
- ⑩「スライドをそのまま読んでいる」という印象を与えるとまずいと思うので、場合によっては箇条書きにした方がよいのではないのでしょうか。
- ⑪このくらいのスライドで適当だと感じました。

(5)その他（受講者名・受講者番号・所属機関名）

石坂憲司 20 信州大学附属図書館
手塚久盛 21 信州大学附属図書館

以上。